

づくりシンポジウム えあいのしくみづくりを考える～

されました。原田正樹氏（日本福祉大学教授）を講師に迎え、5名のシンポジストによる「浦添市参加者全員がそれぞれの立場からできること・それぞれの役割を改めて考える場となりました。今一度、家族や友人、職場のみんなと話し合ってみませんか？

基調講話

これからの地域福祉

～地域包括ケアシステムと地域住民の役割～

- 少子高齢・人口減社会、単身世帯の増加、さらには人間関係の希薄化など…それらに伴って発生する医療や介護の問題は今後ますます深刻化していきます。
- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**地域包括ケアシステム**の構築が求められています。
- これからは住民も含め、高齢者や障がい者など何らかの支援が必要な方々を支え合うしくみをつくっていくことが大切です。



講師：日本福祉大学
教授 原田 正樹 氏

「地域包括ケアシステム」とは？

生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めたさまざまな生活支援サービスが日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制のこと。

※日常生活圏域

→おおむね30分以内で駆けつけられるような範囲（中学校区）



地域で大人一人ひとりが子どもたちを守り、思いやりを持って行動ができれば良いなど思った。家庭内のコミュニケーションも大切にしていきたい。

あなたにとって「安心して暮らせる福祉のまち」とはどんなまちですか？

